
楓 心

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【Nコード】

N9164Y

【作者名】

楓心

【あらすじ】

新配信

F a c i a l s o u l

クリアデータ。

クリア者に破格の賞金

3,000万円。

謎のゲーム攻略に

チャレンジ。

その裏側には…

日常×非日常

目覚ましが鳴り響く。

その中で無造作に起き上がり粗々しくも携帯を手に取りアラームを切る。

綺麗な赤に染まった髪も

寝起きで、至る所に変な癖がついている。

そんなことは気にも留めずに

スウェットを脱ぎ捨て制服に袖を通す。

狭い1Rからだるそうに出ていく。

そう…いつもと変わらない一日が始まるのだ。

.....

通いなれた通学路。

後ろから声をかけられる。

「おはよー」

同じクラスの【はじめ】だ。

「おはよ…」

まだ頭が働かない。

「かずま、いつも眠そうだな!」

かずま…俺の名前だ。

17歳の高校生。

1Rに一人暮らし。

親は? って…

一応いる。けど俺には興味がないみたい。お互い不倫相手と同棲中で、俺は邪魔者。金だけ出してくれているのはせめてもの救いだ。

その邪魔者がはじき出されて一人暮らしってわけ。

んで一応、高校にも通ってる。

このはじめてって奴が学校に行かないと家に来て面倒だから。

一応心配してくれてるらしいが、男友達って口には出さないだろ?

まあ、居心地がいいからつるんでる。

「かずま知ってる?」

「何?」

「昨日、ネットで見つけたんだけど…」

プリントアウトした記事を見せてきた。

http://xxxxx...

来年1月1日配信

インターネットゲーム

「ファンシアルFansialソウルsoul」

新感覚アクションゲーム

今、流行のアクションゲーム発売の記事。
だが2枚目の記事を見て驚愕した。

http://
:

新配信のFacial Soulをクリアした者。
また、クリアデータに3,000万円出します。

下記にご連絡ください。

連絡先 090-00000-0000

(なんだ、桁を間違えているんじゃないか?)

「はじめ…なんだこの金額…」

「な…謎だろ?でも…ちよっと興味があんだよな。」

確かに俺も興味はある。

しかも配信日が先週だ。

って言うても

正月に新配信するゲームって

なんかおかしくないか?

とは思ったが、とどめといた。

はじめの目が輝いていたから。

そして…

「「放課後かずまの（俺の）家集合な！」」

そう約束して学校に入った。

日常×非日常 - 2

いつも通りの退屈な授業。

難なくこなし、昼休み。

自分の携帯でもFacial soulを検索してみた。

F a c i a l s o u l

制作元：不明

配信元：C L O V E R

価格：フリーソフト

内容：現在調査中

謎の多いゲームだ。

配信間もないソフトなので
内容が調査中なのは納得する。

しかし、製作元不明で

配信元がCLOVER？
個人のアカウントだ。

しかもフリーソフト…

ゲーム会社の試作品か？
それとも盗作？
はたまた個人の趣味？

なんにせよ無料とはうれしいもんだ。

なんたつて…学生には金がない。

とりあえずは放課後を楽しみに待つことにした。

「おつかれえ」

「おつかれさん」

細身で切れ目ないケメンの【かい】
が話しかけてきた。

「今日、はじめが面白そうなゲーム見つけてきたから集まるけど、
かいも来る？」

「まぢ？なんつーゲーム？」

「facial soul」

一瞬間があつて…

「ああ…俺それパス！またなつかあつたら誘つてな」

なんか違和感を感じたがそれほどに気にしていなかった。

家に着くとすぐにはじめも到着。

「よし…もうネットは起動してある。TVに映像を出すからとりあえず

はじめがやってみるか？」

「いや、俺もノート持ってきてるからWi-Fiで接続できつから二人とも

アカウント作つてはじめれるぞ。」

話が早い。

PCを起動。

ソフトをインストールしている時に
玄関チャイムが鳴った。

（誰だ？家に人が来るなんて珍しいな…）

「はい」

ガチャ…

「かずま様に、はじめ様ですね？」

「ああ」

「こちらをお届けです。」

小包が2つ。

それぞれに名前が書かれている。

送信者：COVER

どういうことかそれなりの仮説を立てるが
どれも曖昧だ。

受け取って相手を見る…が
もう姿がない。

明らかにヤバい

「はじめ！！！！！」

振り向きざまに顔が青ざめている。

PC画面を覗き込むとそこには…

アカウントログイン

はじめ

…自動で登録が終わっている。

とりあえず届いた

小包を開けてみると

小さなUSBカード

…とその先に何かの受信部？のような球がついているものが入っていた。

それと…俺のには赤いビー玉のような物体。

はじめには黄色いビー玉のような物体がそれぞれ入っていた。

日常×非日常・3

もう後戻りはできない。

直観だが、そんな気がした。

意を決して謎のUSBを接続して…

…

なにも起きない。

あれ？

拍子抜けをしている
俺とはじめ。

画面には、PLAY中と
大きく映し出されているだけ。

「なあ
…」

「なんだこれ。PLAY中って…なんにも反応しねえーぞ？」

確かに。

でも、慌てても仕方がない。

状況を把握しなければいけないからな。

かずま

「俺の部屋は変わりないけれど、外がどうなっているか…
気になるだろ？」

はじめ

「確かに。状況を把握するためにも、周りを散策してみるか。」

とりあえず財布と家の鍵と携帯…

携帯がおかしい。見た目は俺の携帯だが、画面には…

ようこそ Facial Soulへ

「ステータス」

「仲間」

「持ち物」

「ヘルプ」

なんだかRPGのメニュー画面みたいになっている。

迷わずにヘルプをクリック。

だが…

まだ何も記憶されていません。
会話をして、重要な物事を記憶します。
あなただけのヘルプメニューを作成してください。

やはり外を詮索する必要がありそうだ。

幸い一人じゃない。

これは、精神的に大きく違っだろう。

一人より二人。

1 + 1 = 2 にも 3 にも成りつるのだから。

かずま

「やっぱり外の詮索をしなければ何もわからないみたいだな。」

はじめ

「そうだな。しかたない。いくか！」

浮遊していたビー玉のようなものを
ポケットに押し込み

二人は部屋を出た。

部屋を出るとそこには、不可思議な光景が広がっている。

街並みは、東南アジアなんかによくありそうな
土壁造りの建物がメインで

通路は、まるで迷路の様に入り組んでいるようだ。

かずま

「これって…」

はじめ

「ありえねえ…」

二人は呆然とした。

さっきまで、ぼろアパートや

民家の立ち並ぶ住宅街にいたのだから無理もない。

明らかに日本ではない。

かずま

「とりあえず町の把握と情報収集だな。」

はじめ

「ああ、ゲームだと施設があるはずだ。」

それとゲームの進め方の把握をしなきゃな！」

二人は町をうろつきはじめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9164y/>

2011年12月9日12時50分発行